83 郵便局の木

ータラヨウ（多羅葉）という植物ですー

あけましておめでとう。

弘行君への年賀状には，毎年，その年の干支に関係するお話を書き，午年の去年は丹生川上神社に奉納された馬のことを書きました。

今年は未（ひつじ）年，ヒツジの話は，そんなことと関係なく平成21年9月に，サイエンススポット第38話として山添村のメエメエ牧場のことを書いてしまいました。こんなに長い間書き続けるのだったら，残しておいたのに，と残念です。

ということで，今年は干支に関連したお話が書けません。そこで，お正月といえば年賀状，年賀状といえば郵便局ということで郵便局の木・タラヨウの話にしました。

初めてタラヨウの木を見たのは20年ほど前，大阪中央郵便局の前でした。「郵便局の木」と書かれた立て札に，「この木の葉っぱの裏に釘や先のとがった棒などで字を書くと消えずに残っていることからはがきの木と呼ばれ，郵便局のシンボルツリーとなっています」と書

かれていました。

調べてみると，国のすべての機関が二酸化炭素排出量の削減など環境保全活動に取り組んだとき，当時の郵政省がこの活動の一環としてタラヨウの木を郵便局の木と定め，植樹を進めたことが，日本郵政グループの「社会・環境レポート 2013」に書かれています。

タラヨウのことをジカキシバ，エカキシバなど呼んでいる地方もあるそうで，古くからこの木の葉っぱには字が書けることが知られていたようです。また，約 500 年前の戦国時代にも紙の代用品として使われたと聞きました。昔のメモ用紙だったのですね。

このように郵便局やお寺に関係の深いタラヨウはおじさんの町の天理郵便局，私の家のお墓のある奈良市内の九条山浄教寺にもあります。西本願寺の第 24 代即如門主お手植えのタラヨウです。葉っぱを 1 枚いただいて字を書いてみました。

弘行君の近くではどうでしょうか。郵便局，お寺，神社などを見て回って観察してください。もしいただけるようならば字を書いて見てください。切手を貼れば手紙として出せますよ。料金は郵便局で聞いてください。　（平成 27 年 1 月・中 3 の弘行君宛て）

スポットの案内

天理郵便局は JR・近鉄天理駅から東 500m，浄教寺は JR 奈良駅から東へ 500m です。

お便りをいただいて

Ｓさんから「たしかあったはずと探してみたら，昔，字を書いたタラヨウの葉っぱが出てきました。なんと今も読めるんです。色あせてなんかいません。こんな葉っぱの性質を発見した昔の人に脱帽です」というメールをいただきました。

「それはいつでしたか」とお尋ねすると，「平成 10 年 5 月 10 日の日記にこう書いてあります」との返事です。そこには「グラウンドゴルフを終え用具を戻しに行ったときＫさんが『この木の葉っぱに字を書くと紙みたいにいつまでも残ってるでェ』とのこと。半信半疑で爪楊枝で字を書きビニル袋に入れて壁に貼る」と書いてあったそうです。

Ｓさんは20年近くも前のことを鮮明に覚えておられました。自然の不思議に感動され，探究への意欲をかき立てられたという昭和１桁生まれの先輩の話です。

理科のワンポイント「葉の死環」

線香の火を葉に押しつけて少しするとその周囲が黒く変色して環ができます。これを死環といいます。写真は線香の火を葉の裏側に押し当てたときのものです。死環は葉の表側にもくっきりと現われています。

死環は熱で葉の組織が壊れ，急速に黒く変色して現れるもので，熱だけでなく，とがった棒などで圧迫してもできます。葉の組織が壊れ

た結果，外気からの酸素と葉のタンニンが結合し，黒色のタンニンに変化するためです。周りが黒くなったのに，中心部が変色していないのは，酸化する前に，熱で酵素が破壊されるためタンニンの酸化が起こらないためだそうです。

この死環の濃さや幅，発現するのに要する時間などは植物の種によって異なるので，樹木の簡易な識別のために使えるそうです。